

地域連携だより

令和元年6月号
けいなん総合病院 地域連携委員会

消化器内科の 体制整備について

病院長 政二 文明



妙高市は、健康寿命が男女ともに新潟県の平均を7年前後上回っている長寿地域であります。しかし、その反面当市は悪性腫瘍の死亡者に占める大腸がんの比率が県内の自治体で最も高いという事実があります。(平成29年度 全県の大腸がん死亡率13.9%に対して妙高市は15.6%)しかも、年々その比率は上がってきています。すなわち当市では大腸がんを予防できればさらに健康寿命が延びることが期待されるのです。大腸がんは内視鏡検査の際にポリープ切除を行うことにより死亡率を53%減らせることが明らかになっている癌です。すなわち当市では大腸内視鏡の受診率を高めれば死亡率が下がることが期待できるのです。この大腸癌の高い死亡率を下げるには市民の皆さんが大腸内視鏡をもっと近い場所で、もっと気軽に、苦痛も少なく受けることができるようにして受診率を高める必要があると考えました。そこで、この度、新潟大学消化器内科と妙高市の関係者の皆さんと御相談し、新潟大学から消化器内科の専門医を派遣していただくこととなりました。当面は消化器内科専門医による外来が週2日に加え大腸内視鏡を含めた内視鏡検査が1日ですが来年度はさらに拡大を予定しています。

癌の治療は内科、外科、放射線科などの総合的な力がものをいいます。当院は医師不足により全身麻酔を要する外科手術を休止していますが、県立中央病院、上越総合病院など外科手術と放射線治療の体制が整った病院との連携をさらにスムーズにすることで、むしろ治療成績を向上させることが期待されます。

さらに新潟大学消化器内科とは、

- 消化器系がんと生活習慣病関連消化器疾患等の実態調査と予防事業に関する研究・立案・啓発
- 消化器疾患等の患者支援のために信頼できる診療・ICTネットワークの推進
- サルコペニア有病率の実態調査と科学的根拠にもとづく筋力トレーニングの効果的対策の立案
- 最適な食事形態のあり方と機能性食品が疾病予防や健康寿命延伸に寄与する科学的根拠の証明
- 上記課題による若手研究者・次世代の医師の育成
なども積極的に進める予定です。

この試みが妙高地区の癌の減少に寄与することで住民の皆さんの健康に貢献できるように住民の皆さんの積極的なご利用をお願いいたします。

医師紹介 ～新たに着任された先生方～

■常勤医師

小児科

林 晃久 はやし あきひさ



はじめまして、4月より小児科に勤務しております林と申します。上越市の出身で、初期研修以来、久しぶりに上越に戻ってまいりました。地域の医療に貢献したいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■非常勤医師

内科(内視鏡)	上村 博輝	かみむら ひろてる	新潟大学医歯学総合病院より
内科(消化器)	高綱 将史	たかつな まさふみ	新潟大学医歯学総合病院より
内科(消化器)	平野 正明	ひらの まさあき	新潟県立中央病院より
内科(一般)	谷口 賢哉	たにぐち けんや	獨協大学より
内科(一般)	日下 めぐみ	くさか めぐみ	獨協大学より
整形外科	中山 純平	なかやま じゅんぺい	新潟労災病院より
耳鼻咽喉科	大井 祐太朗	おおい ゆうたろう	富山大学より

■今後の予定

7月より、引間高太医師(呼吸器内科)が常勤で赴任され、これまで以上に幅広い疾患へ対応できるようになります。

職場紹介(栄養科)

栄養科は、管理栄養士ならびに調理師・調理助手で構成されています。主な役割分担としては、管理栄養士は献立作成・個別栄養管理・栄養指導といった業務を担当し、調理師・調理助手は調理業務を担当しています。お互いの力を合わせ、安心・安全・美味しい食事提供を心がけております。

昨今では、糖尿病や腎臓病、高血圧症等々、継続的な食事療法が必要とされるケースに加え、嚙む・飲み込むといった食事そのものを食べる力が弱くなってしまった方も非常に多くなってきています。

部門を越えた協力体制で臨み、ニーズへの対応と、更なる内容の充実を図るべく取り組んでおります。

宜しく願い申し上げます。

主任管理栄養士 榎本 裕介



スタッフエッセイ

5階病棟看護師 古川元輝



私は看護師国家試験を2回失敗しました。1回目は試験も受けず、2回目は受験こそしましたが、点数が足りませんでした。

しかし、失敗した後も勉強を続けた結果、翌年の看護師国家試験をパスし、はれて当院の看護師として就職することができました。

そんな私も当院に就職して、早6年になります。就職直後は右も左もわからず、先輩やドクターには注意され、患者には怒られることが何度もありました。それでもめげずに注意されたことは自分の中で考え繰り返さないようにし、足りない知識を補うために、看護師としての勉強を毎日実施していました。大変ではありましたが、とても充実していたと思います。

現在は、少ない数ですが入院から退院までを見据えた患者を受け持つようになったことから、安心して安楽な看護の提供を目指しつつ、退院できるように取り組んでいます。

取組みの一つとしては、患者だけでなく家族にも積極的に声をかけコミュニケーションをとることにより、家族に対しても信頼関係が構築できるよう、意識して日々勤務しています。退院もしくは、看取りで入院している患者がいた時、必ず家族の協力と看取りを見据えた心の準備が必要になります。そのための情報提供を看護師が定期的実施し、コミュニケーションをはかることは患者の情報収集や治療に関する調整をスムーズに進めることにつながると思います。

今年度の病棟・チーム目標にも関連しているため、また今年度からサブリーダーをやらせていただき、よりいっそう看護師として磨きをかけなければならないと考えています。よりよい看護が実践できるように日々考えながら、取り組んでいきたいです。

リーダー業務や委員会の仕事、日勤・夜勤業務でストレスをかかえがちですが、そんな時、私はなるべく体を動かすようにしています。小学生のときからバスケットボールに取り組んでおり、現在も上越市内の社会人バスケットボールのチームに所属しています。仕事が終わって、行くことができるようならなるべく参加するようにし、時々開催される大会にも参加し、入賞したり上越タイムスで写真が取り上げられたりするので、ストレスの発散になります。また、運動することにより、一時的にでも嫌な考えや気持ちを忘れることができ、気分転換につながります。興味にあるかたはぜひ見に来てください。

新米のサブリーダーではありますが、尊敬できる先輩看護師がたくさんいて、有能な後輩看護師をまとめあげ、病棟全体でよりよい看護を提供できるように、これからも頑張っていきたいと思えます。

デジタルサイネージを設置しました

外来診療の待ち時間を有効活用できるよう、3月19日より「デジタルサイネージ」を内科外来と整形外科外来前に設置し、いろいろな疾患の基礎知識、薬の飲み方、病院のトピックス、職場紹介などを毎日放送しています。

当院のオリジナル番組は毎月1番組ずつ追加しておりますので来院の際はぜひご覧ください。



お知らせ

次の日については、外来診療、老健施設、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所をお休みとさせていただきます。

ご不便をおかけいたしますがご理解ご協力くださいますようお願いいたします。

救急の場合は、電話連絡のうえご来院くださるようお願いいたします。

R1.6.21(金) 病院特別休日

R1.7.26(金) 病院特別休日

R1.8.15(木) 病院特別休日



訪問看護ステーションけいなんの管理者交代について

4月1日より、管理者が西條美雪(にしじょうみゆき)主任看護師に交代いたしました。

緊急時24時間対応、ターミナルケア、ALSをはじめ、最近では小児の訪問看護も受け入れしております。

在宅で安心して療養していただけるよう、これからも質の高い訪問看護の提供に努めてまいりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



左から、西條、吉田、大野、大塚



けいなん総合病院 地域連携センター

〒944-8501

新潟県妙高市田町2-4-7

Tel:0255-72-3161(代表)

Fax:0255-72-3175(直通)

E-mail:renkei@keinansogo.jp



みずよまの健康と心の支えに

新潟厚生連